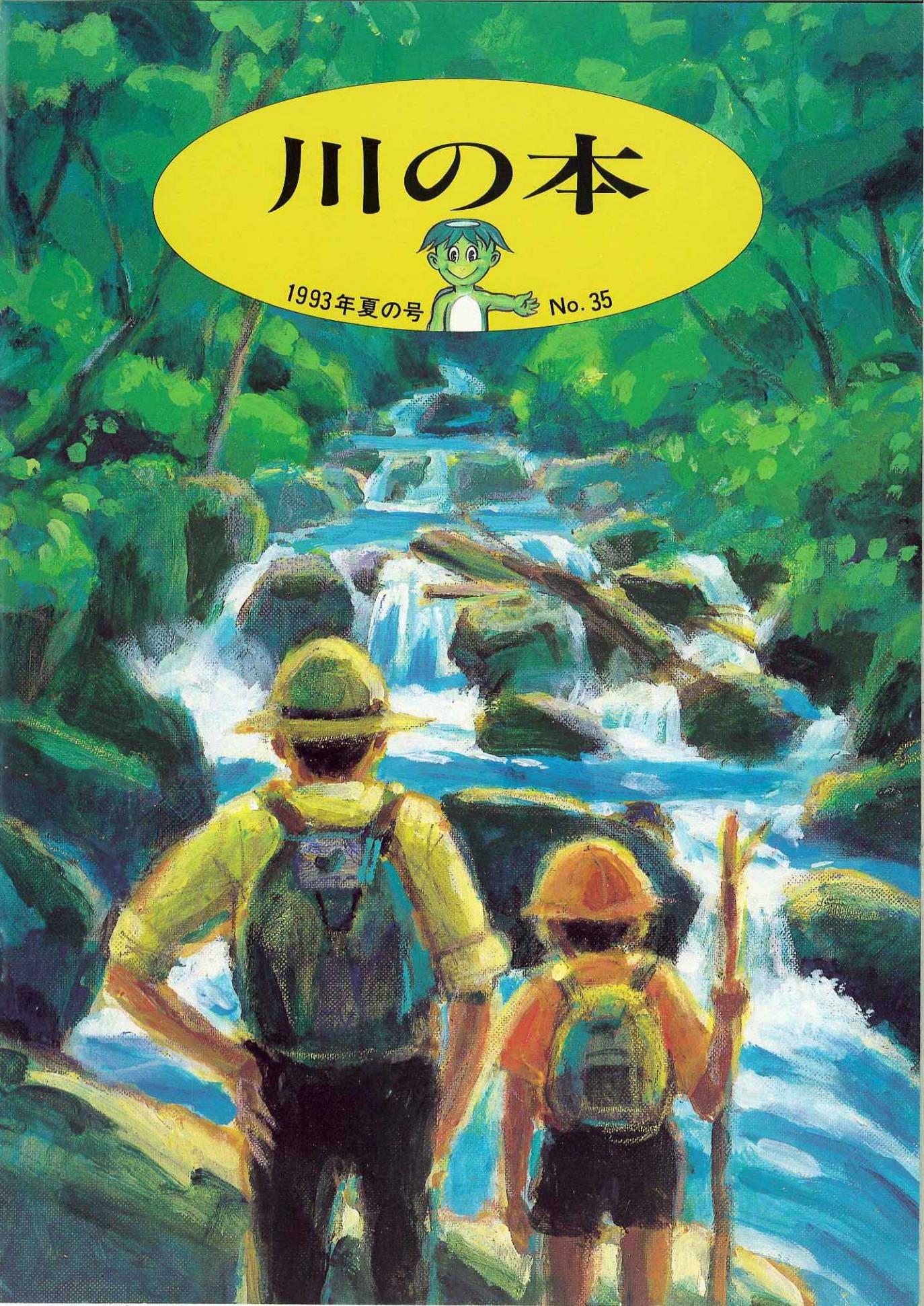


川の本



1993年夏の号 No. 35



日本の神話から

やまた おろち 八岐の大蛇

むかし むかし、すさのおのみこと という名の神さまがいました。すさのおのみこと は気が荒くてらんぼう者だというので、神さまの世界から追い出され、出雲の国（今の島根県のあたり）におりてきました。

そこには大きな川が流れています。（今の斐伊川にあたります）ある日、その川のほとりで、美しい娘をはさんでしくしく泣いている夫婦にありました。すさのおのみこと はふしきにおもってたずねました。

「これ、おまえたちは、なにが悲しくて泣いているのか」

「はい、実は毎年この山奥から やまたのおろち がやってきて大あばれをします。八人いた娘もそのつど食べられ、今は末娘一人になってしまいました。そろそろ今年も おろちがやってくるころなのでこの子も食べられるのかと思うと悲しくて泣けてくるのです」

「それはきのどくなことだ、なんとか助けてあげたいものだが、いったい、その やまたのおろち とはどんな おろち なのだ」

「はい、それはそれはおそろしい怪物です。ホオヅキのように赤い目をしていて、一つのからだに、八つのあたまと八つの尾をもっています。しかも、とっても大きくて八つの谷八つの丘にまたがり、からだ中にこけや木が生え茂っています」

「うむ・・」さすがの すさのおのみこと も考え込んでしまいましたが、やがて名案がうかびました。

「おろち がやってくるところに垣をつくり囲みなさい。そして八つの門をつくり、それぞれの門の中にたるをおき酒を入れておきなさい」

と命じました。^{ふうふ} 夫婦は言われたとおりにしました。

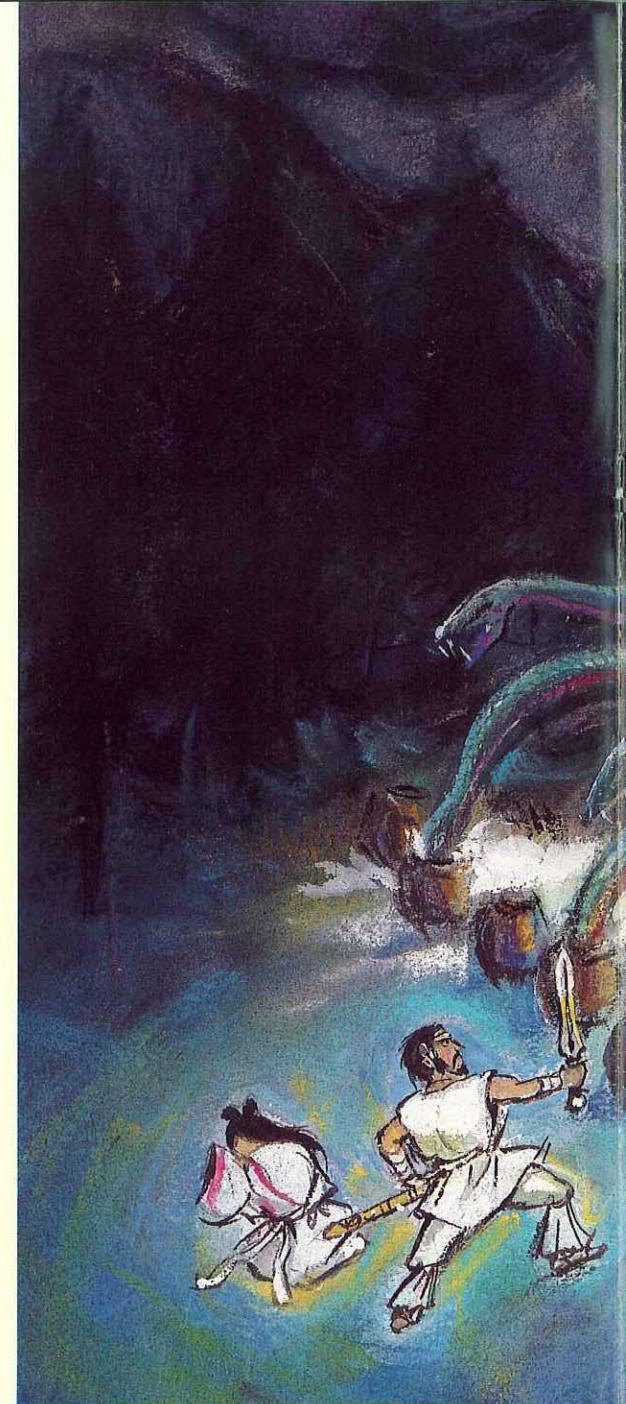
しばらくしたある日、あたり一面の空が真っ黒な雲でおおわれ、山奥でごろごろと雷が鳴り始めると、おもったとおり やまたのおろち がやってきました。かま首をもちあげ、とがった牙をむきだしにして不気味なうなり声をひびかせてやってきました。

そして囲いを見つけると八つの門をくぐり、八つのたるに首をつっこんで酒を飲むと酔っぱらって寝てしまいました。

すさのおのみこと は、このすきに腰の剣を抜いて、やまたのおろち を切り殺してみました。

助けられた娘の名は くしなだひめ といいました。

すさのおのみこと は くしなだひめ と結婚し、いくつもの国をおさめる王になりました。



やまたの大蛇とは、実は、あばれ川のことだった。

八つの首と八つの尾をもつおそろしいおろちが、実は川だったなんて、どうしてでしょう。

ちょっと、大古の出雲国の地図を見てください。くねくねとして、まるで蛇のようですね。しかもその川は、上流部でいく本かに枝分かれしています。また下流部の海にそそぐあたりでも川は何本かに分かれています。

上流のいくつかの谷から流れ出る細い川の部分が尾、下流部で枝分かれした部分が頭。

そう考えると、なんだか、やまたのおろちの姿にそっくりですね。



太古の出雲国

出典「出雲稽古知今」
付図絵図熊野神社

この話は、古事記や日本書紀に出てくる神話で弥生時代のことと考えられていますが、当時の川は、今のように治水が進んでいたわけではありません。大雨が降ると勝手に流れをかえたり、水田や人家までおし流します。洪水になった川がどれほど恐いものだったかを想像することができます。しかし稻作にかかせない水を、川にたよって生きる人びとは、川から離れることはできません。

美しい娘の名は、くしなだひめ、漢字になおすと、奇稻田姫（日本書紀）と書きます。

つまり、やまたのおろちのように恐しい洪水が、毎年おそってきて、娘のように美しい水田を、あとかたもなく

流しさっていたのです。

そこで、すさのおのみことは策をたてます。

まず垣で囲われます。これは堤防だと考えられます。さらに八つの門をつくり、酒だるをおいておろちをさせいこみます。この酒だるは、溜め池です。ここで洪水をやわらげたのだと解釈されています。

また、すさのおのみことは、くしなだひめと結婚しますが、これは、治水に成功したすさのおのみことが、人びとの尊敬をあつめ、この地域を治めることになったことを意味しているのでしょうか。

古代の人びとが川と共に生き、洪水とたたかった姿が見えてくる物語です。

夏の川と昆虫たち

夏の川辺は、昆虫天国。バッタがいる、トンボがいる。
水の中にも昆虫はいっぱいいるぞ、さあ昆虫採集にでかけよう。



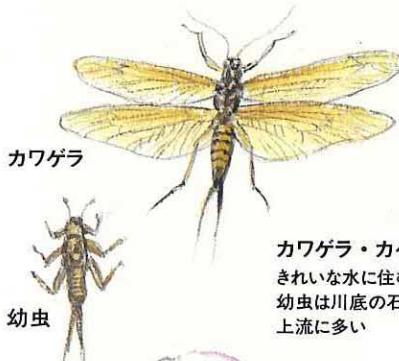
コムラサキ

けい流など上流の河原をひくとぶ
流れに近い湿った砂地に含まれた水を
吸いにくる



カワトンボ

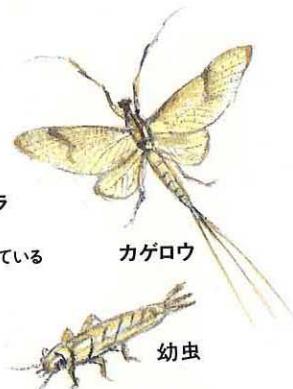
川辺の岩や草にとまっている時は
はねをたたむ
上流に多い



カワゲラ

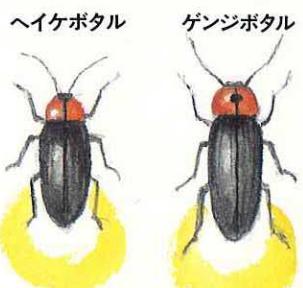


カワゲラ・カゲロウ・トビゲラ
きれいな水に住む
幼虫は川底の石にはりつたりしている
上流に多い



カゲロウ

幼虫

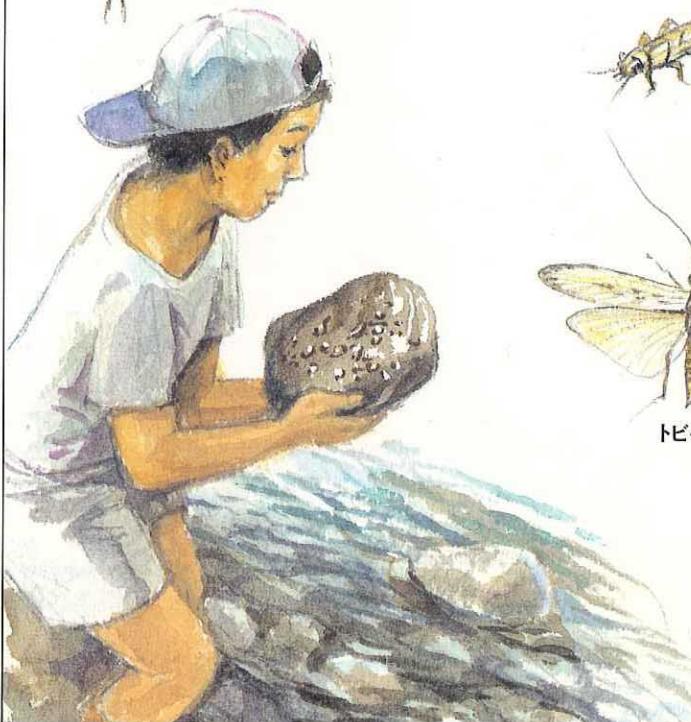


ヘイケボタル

ゲンジボタル

ゲンジボタルは幼虫のとき
きれいな水にすむカワニナ
を食べておおきくなるので
きれいな水辺に多い

ヘイケボタルはややよごれた
水にすむヒメタニシを食べて
育つ
ボタルの種類で川の
水質がわかる



トビゲラ



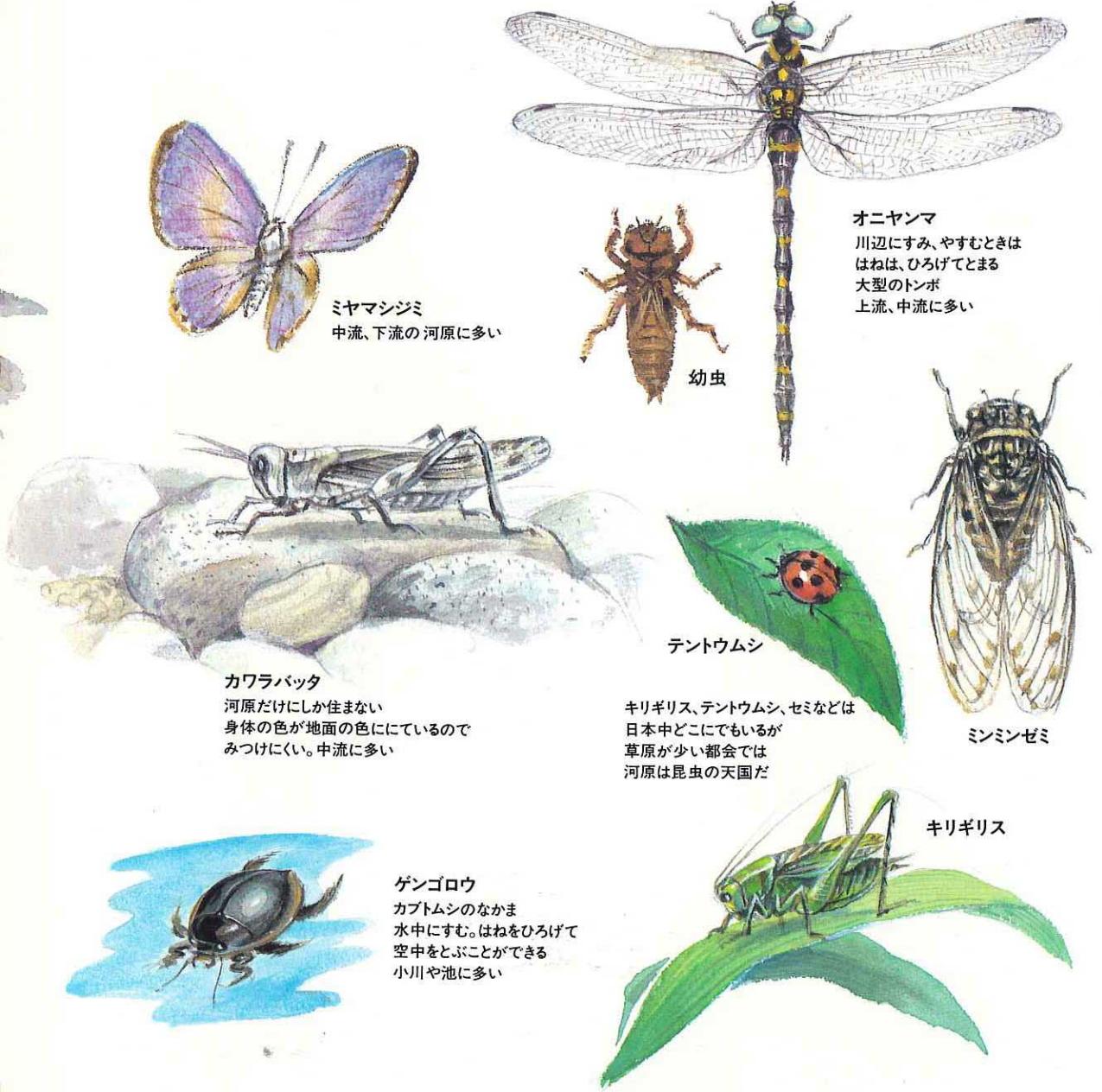
幼虫



トビゲラの幼虫のつくる筒型の巣

河川水辺の国勢調査
によると
川辺にいる昆虫の
多さにびっくりするよ





河川に生息する陸上昆虫類と底生動物

建設省：平成3年度「河川水辺の国勢調査」より

水系別陸上昆虫類等出現種数

河川名	現地調査による確認種数	目別の出現種数								
		トンボ目	バッタ目	カメムシ目	コウチュウ目	ハチ目	ハエ目	チョウ目	その他昆蟲	昆蟲以外
1. 馬淵川	191	3	9	21	82	9	10	54	3	0
2. 岩木川	226	3	11	20	75	9	14	90	4	0
3. 姫川	630	10	31	81	143	82	68	152	18	45
4. 黒部川	294	6	30	25	70	15	15	80	11	42
5. 櫛田川	266	9	25	59	99	12	15	16	10	21
6. 肴川	277	7	25	38	101	10	22	44	15	15

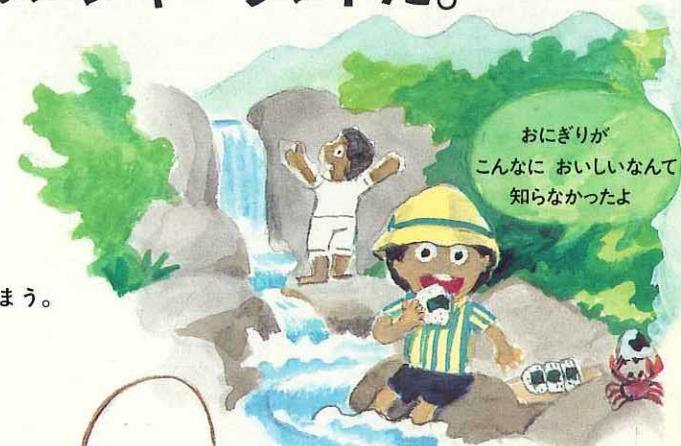
底生動物確認種数

河川名	出現種数	扁形動物門					环节動物門					節足動物門					合計
		軟体動物門	環形動物門	節足動物門	合計	扁形動物門	环节動物門	節足動物門	合計	扁形動物門	环节動物門	節足動物門	合計	扁形動物門	环节動物門	節足動物門	
鬼怒川	1	1	2	43	47												
小貝川	0	3	2	30	35												
櫛田川	1	7	2	43	53												
紀の川	1	3	7	65	76												
新宮川	0	3	1	38	42												
吉野川	1	23	16	133	173												
那賀川	1	11	11	100	123												
遠賀川	0	8	8	76	92												
菊池川	1	8	9	75	93												
9河川	1	38	29	241	309												

「文部省：学術用語集動物学編」(丸善、1992)に従い区分した

夏の川は自然いっぱいのレジャーランドだ。

リュックかついで谷川をさかのぼる
 つかれた足を冷たい流れにつっこんで
 鳥のさえずりを聞くのは最高だ。
 夏の川はどこでも君たちを待っている。
 サイクリングで汗びっしょりかくのもよい
 河原にねっころがって空の広さを知るのもいい
 元気いっぱい水しぶきを上げるのもいい
 お父さんも、お母さんも、子供のようについてはしゃいでしまう。
 さあ夏の川へ行こう。
 川と遊んだたのしいおもいで、自然とすごした感激を かんげき
 胸いっぱいのおみやげにできるから。



川の伝統行事

鵜 飼



鵜飼の歴史は古く、古事記、日本書紀、万葉集にもみられます。現在は筑後川・肱川・江の川・錦川・高津川・宇治川・桂川・有田川・長良川・木曽川・笛吹川などで行われています。なかでも岐阜県長良川の鵜飼は、千二百年の伝統を受け継ぐもので、長良川の鵜匠だけが、宮内庁式部職という名譽ある肩書きを持ちます。夜、舟にかがり火をたき、よく訓練された鵜を使いアユをとる姿は、優雅で多くの観光客を集めています。



川のマメ知識

どちらが右岸でどちらが左岸

川の堤防(土手)は上流から下流に向って、右側を右岸、左側を左岸と呼びます。

むかし川はものを運ぶ大切な交通路でした。上流に住む人々は、下流の町から、くらしに必要な品物が舟で運ばれてくるのを、川下に向って、いまか、いまかと待ちわびたそうです。そんなところから川下に向って右側を右岸、左側を左岸と呼ぶようになったという説もあります。



どちらが堤内、どちらが堤外

川では堤外地、堤内地という言葉がよく使われます。川が流れているところが堤外、私たちの住んでいる町の方を堤内と呼びます。

むかし、地域のひとびとが考えてつくった、輪中といわれる地域があります。絵のように村全体を洪水から守るために堤防が築かれています。この輪中のように、ひとびとの住む側が内側ということになったという説もあるそうです。



河川愛護月間

7月1日→31日

8月1日は水の日です

河川環境管理財団は
みんなに愛される川であるように、こんな仕事をしています。

- *よりよい水辺のプランニング
- *楽しく安全に遊べる川づくり
- *川をきれいに、川を愛する心を育ぐくむ運動
- *未来の水辺を考えた調査や研究
- *せせらぎ・ふれあい基金

●この本は再生紙を使用しています。